

別紙1-1

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 横井由宇樹

論 文 題 目

Serum uric acid as a predictor of future hypertension:

Stratified analysis based on body mass index and age

(高血圧発症の予測因子としての血清尿酸値

—BMI と年齢による層別解析—)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

濱嶋信之 


名古屋大学教授

委員

若井建志 

名古屋大学教授

委員

有馬寛 

名古屋大学教授

指導教授

室原豊明 

論文審査の結果の要旨





今回、血清尿酸値が新規高血圧発症に及ぼす影響を調べるために大規模な長期コホート研究を施行した。その結果、若年中年日本人男性において血清尿酸値が将来の新規高血圧発症における独立した危険因子であり、またその関係は 40 歳以上の群において特に強いことが示唆された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 臨床上での定義である血清尿酸値 7mg/dl で 2 群に分け同様の解析を行ったが、血清尿酸値 7mg/dl 未満の群と比べて 7mg/dl 以上の群において有意に高い新規高血圧発症率を認め（調整 HR:1.14, $p<0.001$ ）、本集団における臨床上的カットオフ値の有用性が確認された。
2. 血清尿酸値の時間的変化の影響について検討するために、血清尿酸値の年次推移を回帰直線に当てはめ、その傾きを多変量解析に追加した。その結果、ベースライン時の血清尿酸値は時間的変化を考慮しても将来の新規高血圧発症に有意に関連していた。（血清尿酸値 1 群に対する 3 群の調整 HR:1.10, $p<0.001$ ）
また傾きが 0 以上の群と 0 未満の群に分けて比較したところ、傾きが 0 未満の群において有意に高い新規高血圧発症率が得られた。（47.72% vs. 39.47%, $p<0.001$ ）
その理由として傾きの平均が 0.0028 (± 0.24) と非常に小さくベースライン時の血清尿酸値が追跡期間中それほど変化しないことと、傾きが 0 未満の群でベースライン時の血清尿酸値が有意に高いことが挙げられ（ $6.04\pm 1.14\text{mg/dl}$ vs. $5.59\pm 1.05\text{mg/dl}$, $p<0.0001$ ）、本研究結果に矛盾はないものと考えられる。
3. 空腹時血糖 126mg/dl 以上或いは糖尿病内服治療開始を糖尿病発症と定義し新規糖尿病発症との関係を調査した。その結果ベースライン時で空腹時血糖が 126mg/dl 以上であった 347 例を除く 26,095 例中最終的に 1,410 例（5.4%）の新規糖尿病発症を認めた。しかし、本集団においては血清尿酸値 3 分位による比較では、新規糖尿病発症は新規高血圧発症のように有意な関係は認めなかった。（血清尿酸値 1 群に対する 3 群の調整 HR:1.05, $p=0.50$ ）

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	横井由宇樹
試験担当者	主査	濱島信之 	若井建志 	有馬寛 
	指導教授	室原豊明 		

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 臨床上の定義である血清尿酸値7mg/dlでの検討
2. 血清尿酸値の時間的変化の影響について
3. 血清尿酸値と新規糖尿病発症の関係

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、循環器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。